

## 今週の為替相場見通し(2017年6月26日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.80 ~ 111.79	111.30	110.00 ~ 112.50
ユーロ	(ドル)		1.1119 ~ 1.1215	1.1193	1.1150 ~ 1.1250
(1ユーロ=)	(円)		123.67 ~ 124.70	124.60	124.00 ~ 125.50
英ポンド	(ドル)		1.2589 ~ 1.2814	1.2720	1.2600 ~ 1.2800
(1英ポンド=)	(円)	*	139.86 ~ 142.55	141.55	139.00 ~ 142.50
豪ドル	(ドル)		0.7535 ~ 0.7629	0.7565	0.7500 ~ 0.7800
(1豪ドル=)	(円)	*	83.73 ~ 85.09	84.22	83.00 ~ 87.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1)今週の予想レンジ: 110.00 ~ 112.50 円

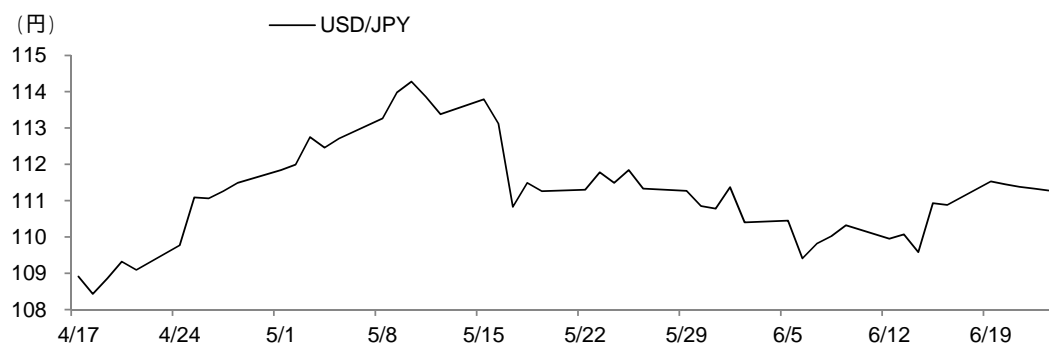
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場は決定的な材料を欠く中で要人発言等を材料にレンジ内を上下する展開。週初19日、ドル/円相場は110円台後半水準にてオープン。週安値110.80円をつけた後は111円台ちょうどを挟んでの揉み合い推移が続いたが、ダドリーNY連銀総裁講演での「景気拡大局面がやや長期化しているが、まだ長く継続すると確信している」との発言を受け、米金利急騰と共に111円台半ばまで上昇。翌20日、米金利上昇を受けてドル/円相場の上昇は継続し、週高値となる111.79円をつけた。その後、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のカーニー総裁による「インフレ圧力は抑制されており利上げの時ではない」との発言を受け、対英ポンドや欧州通貨で円高が進む中、ドル/円相場は軟化。加えて、ムニューシン米財務長官による「強いドルには不利な面もある」との発言を受け111円台前半まで下落。週央21日、ハルデー ECB理事による「年後半の利上げを支持」との発言を受け、前日の巻き戻しからドル/円相場も111円台後半まで上昇。翌22日、ブラード・セントルイス(SL)連銀総裁による「政策金利を今後2年半で3%に引き上げる見通しは不用意に積極的」との発言により米金利ならびにドル/円相場の上値は押さえられ、111円台前半水準にて停滞。週末22日、前日に引き続きブラードSL連銀総裁のハト派的発言が報じられるも、マスター・クリーブランド連銀総裁からはタカ派的発言が伝えられ、結果としてドル/円相場はレンジ推移となり、結局111円台前半水準にて越週した。

今週のドル/円相場は引き続き方向感に欠く展開を予想する。今週は27日(火)のイエレンFRB議長講演や28日(水)のカシュカリ・ミネアポリス(MP)連銀総裁講演等、複数のFED関連要人講演が予定されるが、影響は限定的となろう。イエレン議長講演については直近FOMC後の会見から日が浅いことに鑑みれば新たな情報が出るとは考え難い。FED内最ハト派であるカシュカリMP総裁講演には注意を払う必要があるが、こちらもFOMC後に公表された同氏論文以上の内容が出るとは予想し難い。各々のタカ派/ハト派的発言を受け相場はある程度の反応を見せるであろうが、内容が既存発言から変化するものでない限り、その影響は限定的となろう。米5月PCEコアデフレーターを発表を30日(金)に控えていることも週内の値動きを限定する材料として意識される。なお、その他の重要な経済指標としては、26日(月)に米5月耐久財受注、29日(木)に本邦5月小売売上高および米1~3月期GDP(3次速報値)、30日(金)に本邦5月全国消費者物価指数、本邦5月鉱工業生産(速報値)、米6月シガン大学消費者マインド指数等の発表が予定されている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(6/19~6/23)の値動き: 安値 110.80 円 高値 111.79 円 終値 111.30 円



お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。  
しています。

レポート全ページをご希望の方は、  
お取引いただいているみずほ銀行の  
お取扱店、またはお取引担当部まで  
お問い合わせください。

以上